

平成 20 年 10 月 8 日

各 位

東京都港区南青山五丁目 4 番 35 号
株式会社リンク・セオリー・ホールディングス
代表取締役社長 佐々木 力
(コード番号：3373 東証マザーズ)
問合せ先 取締役グループ CFO 大西 秀亜
TEL 03-3407-7502(代表)

中期計画「LTH2010」の修正に関するお知らせ

2007 年 10 月 10 日に発表いたしました中期計画「LTH2010」(2008 年 8 月期から 2010 年 8 月期)について、昨今の経済状況を勘案し、以下のとおりの修正をいたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 修正の内容

計画最終年度 2010 年 8 月期における連結売上高 800 億円、連結営業利益 60 億円の目標を取り下げます。但し、営業利益率 7.5%の達成は引き続き目指して参ります。

また、中期経営方針「利益成長を伴う健全な業容拡大」を堅持し、課題としてあげた

- ① ブランドポートフォリオの最適化、
- ② 育成・再生ブランドの黒字化、
- ③ Theory 事業の持続的成長、に引き続き取り組んで参ります。

2. 修正の理由・背景

米国における信用力の低い個人向け住宅融資問題(いわゆるサブプライム問題)に端を発し、米系大手証券会社倒産に至る世界的な金融危機は未だ解決の見込みが立たず、实体经济に対しても大きな影響を及ぼしています。原油等資材価格の高騰とあいまって、世界的な個人消費の低迷は長期化するものとみられます。

このようなマクロ環境の著しい悪化により、新年度 2009 年 8 月期予想売上高・営業利益はともに中期計画を大幅に下回るものとなっております。中期計画に掲げた最終年度 2010 年 8 月期の連結売上高 800 億円、営業利益 60 億円は、足元の状況と大幅に乖離しており、その修正はやむをえないものと考えております。

本来であれば、2010 年 8 月期の修正計画数値をお示しすべきところではありますが、現時点

LTH

の世界的な金融危機の状況からは、十分な確度をもった予想策定は難しいため、数値目標を取り下げることにしたものです。

3. 2008年8月期の取り組みと成果

本中期計画1年目にあたる2008年8月期は、欧米市況の悪化と大幅な円高によって、中期計画対比61億円の売上未達成（うち19億円は円高による外貨建て売り上げの目減り分）となりましたが、厳格な在庫管理による粗利益率向上と経費抑制により、営業利益は1.5億円の超過となりました。中期経営方針として掲げた「利益成長を伴う健全な業容拡大」のもと全社一丸となって努力し、売上が計画を下回っても営業利益を維持することができました。特に粗利益率54.5%は、中期計画最終年度に計画していた53.4%を上回る実績となりました。

ブランドポートフォリオ最適化、育成・再生ブランド黒字化の観点から、Jean-Michel Cazabat、Proof、Premise（米国事業のみ）の休止、カジュアル事業を行うアーバンホリック社を親会社リンク・インターナショナルに吸収合併させる、などの諸施策を着実に実行いたしました。

Theory 事業の持続的成長についても、主要市場である日本と米国においては前年対比で着実に売上を伸ばしました。大幅な成長をめざす欧州においては、今年4月のロンドン直営1号店に引き続き9月にも路面店2店舗（うち1店はアウトレット店舗）をオープンし、昨年オープンしたパリ店とあわせて欧州域内の直営店は4店舗となった他、主要百貨店における売場面積も拡大し、マーケットへの浸透が進みました。日本以外のアジアでも中国・香港の当社グループ直営店舗が11店舗に達し、韓国・台湾・シンガポールの現地パートナーが運営する店舗とあわせ、Theory店舗は51店舗となりました。

上記のとおり、「LTH2010」に掲げた経営方針、課題への取り組みは着実に成果をあげており、ますます難しさを増す経営環境を乗り越えていくために、今後も全社一丸となって努力して参ります。

以 上